

令和6年度学校法人興誠学園中期経営計画に基づく実施状況

令和6年度に策定した中期経営計画「興誠学園 地域共創プラン」に基づく中期経営計画の実施状況(概要)について報告します。

2025年8月22日

【法人本部】

1 高校の生徒増加策検討への参画

昨年度設置した大学、高校及び中学と連携したプロジェクトチームにより、新たな募集リーフレットを作成した。このリーフレットにより、高校、中学の教員が積極的に中学、塾に対し、2025年度の生徒募集を行ったこともあり、2025年度高校入学者数が大幅に増加した。

その後、プロジェクトチームとしての活動は行えていないので、今後の進め方について法人本部と中高とで協議する。

2 中学校の在り方検討への参画

プロジェクトチームにより、新たな募集パンフレットを作成し、生徒募集を行った。

その後、プロジェクトチームとしての活動は行えていないので、今後の進め方について法人本部と中高とで協議する。

3 広報調整会議の設置と一体的広報の実施

各部門の広報担当者による広報調整会議を設置し、こども園から大学までを有する総合学園をアピールする学園全体の統一広報を実施した。

浜松駅バスターミナルについては、これまで大学短大のみの広報看板が設置されていたが、広報効果が高い一等地にあるため、広報調整会議で調整し、学園全体の統一広報看板を設置した。

また、浜松駅在来線階段にも新規で学園統一広報看板を設置した。

4 学園内の一貫性を持った教育モデルの構築

「スマート保育」については、大学及び短大での育成と、付属幼稚園及びこども園でのスマート教育スペシャリストの認定を進めており、法人本部は、予算編成面での協力を行った。

5 教職員の就労環境の整備

時間外勤務及び休暇申請・承認がシステム上で完結するよう、勤怠管理システムの改修を進めている。業者選定は終了し、現在、業者と詰めの作業を行っている。

令和7年度中に、システム整備は完了し、試行の後、新システムにより本格実施することとし、紙の勤務簿は廃止する。また、給与システムと連携した人事システムを導入した。

6 私立学校法改正に伴う理事会、評議員会等制度見直しと寄附行為等関係規程改正

私立学校法改正(2025 年 4 月 1 日施行)に合わせて、寄附行為改正作業を進め、9 月の理事会、評議員会で、寄附行為改正の議決を得た。

11 月には文部科学省に変更認可申請し、令和 7 年 2 月に認可を得たところである。また、関係する学園規程の改正を行い、令和 7 年 3 月までに完了した。

7 中学校・高校施設整備基本計画の適切な進行管理

現在建築中の中高新体育館を 2025 年度入学式から使用できるよう、監理監督者及び施工業者と連携し、進行管理を行い、予定通り令和 7 年 2 月完成、引き渡しを完了した。

また、誠徳館連絡橋の設置が可能との判断が出たため、施設整備基本計画の第 2 期工事(現体育館解体)及び第 3 期工事(生徒会館建設)については、いったん保留とし、誠徳館は引き続き活用、旧体育館は財政状況も勘案し、当面体育館として活用することとした。

【浜松学院大学】

1 スマート教育スペシャリストの育成

(授業) 正課内授業「子どもと AI・ICT」は、子どもコミュニケーション学科 1 年次後期科目として開講、26 名が履修した。授業内で幼児期へのプログラミング指導法を学び、グループでスクラッチジュニアの模擬授業やデジタル絵本の制作と発表会を行った。

(学園内連携) 浜松学院大学附属愛野こども園で資格説明会を開催し、スマート教育スペシャリスト認定資格試験を実施した。その結果、16 名の職員が学科試験に合格している。また、4 歳児親子 6 組にプログラミング教室を開催した。

(STEAM 研究所の運営) STEAM 教育プラットフォームとして、浜松 STEAM 教育研究所を設立、運営を開始した。スマート教育スペシャリスト認定資格の普及活動により、学科試験検定料や認定証発行による収益化を実現した。(学科試験受験者 89 名×3,000 円=267,000 円、講演料 4 回=90,000 円、発行手数料 1 人=500 円、合計収益：357,500 円)

外部資金の獲得については、科学研究費助成事業には採択されなかったが、静岡県西部しんきん地域振興財団助成金が採択され、10 万円の交付を受けた。

(資格授与) 令和 6 年度においては、スマート教育スペシャリスト(シングル・スター)認定証を市内幼稚園・こども園の教職員等 6 名に授与し

た。

(学外イベント) 民間企業主催の「共創の未来! 幼児期からのプログラミングフォーラム」に浜松市や磐田市とともに後援し、講演会・トークセッションに学長が登壇した。

また、浜松私立幼稚園協会主催の「親子ふれあい子育てフェスティバル」(来場者 335 名・参加学生 12 名) への参加や、磐田市保育士会職員研修(対象: 磐田市保育士 50 名)、市内幼稚園親子プログラミング教室(対象: 親子 57 組・教職員 44 名)を開催するなど精力的に活動した。

2 製造業を中心とした地域企業への就職支援

求人動向に左右されない安定した内定確保のため、地域の優良中堅企業をリストアップし覚書締結による推薦枠制度を新設し、令和 7 年度より実施する。地域経営学科の就職支援プロジェクト「経営塾」と上記推薦枠制度とを連動させ、就職を念頭とした長期企業内留学先整備の計画を作成し、令和 7 年度より実施する。併せて、地域経営学科 2 年次の授業において、地元製造業 2 社の社長による職業理解講話を開催し、製造業の魅力を発信した。

3 地域教員希望枠制度の活用

文部科学省の「教員養成希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」については、令和 6 年度事業計画の段階で、浜松市教育委員会との調整が難航し申請を断念した。しかし、令和 7 年度浜松市教育センター主催の研修を本学で開催することを取り決め、地域教員希望枠制度活用に向けて浜松市との繋がりを深めるよう努めた。

4 キャリア教育の充実

低学年からのキャリア教育を実施するため、1~4 年のキャリア支援ステップを示した「就活スケジュールとキャリア支援時期」を更新し、学生に説明した。1 年次「アカデミックスキルⅠ・Ⅱ」、「地域共創演習Ⅰ」、「子どもコミュニケーション」においてキャリアセミナーを計 6 回実施、2 年次「キャリアプラン」内において、低学年を対象としたふじのくにコンソーシアム助成事業「県内大学による県内定着促進助成事業」を 3 コマ実施するなど、早期から就職に向けた意識付けを行った。

また、「経営塾」開設に向けた準備をすすめる他、初等専攻の正課内授業「保育教育対策講座Ⅰ・Ⅱ」を新設し、就職支援制度の充実を図った。

今年度は、就職試験対策講座及び令和 5 年度開講の公務員試験スタートアップ講座受講生が、行政、消防、警察等の公務員試験に 7 名合格し、過去最多の合格者を輩出した。

5 地域に出向くアクティブ・ラーニング型学修の推進

地域経営学科では、ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu やゼミナール合宿（福井県、長野県、韓国釜山市）、第 18 回社会調査インターカレッジ発表会等、全ての教員がいずれかの行事等を担当し、アクティブ・ラーニング型の学修を推進した。令和 7 年度も改善を加えながらアクティブ・ラーニング型学修を推進していく。

6 部活動等の充実

男子バスケットボール部では、SNS を活用した広報活動を強化し、フォロワー数の増加を通じて大学及び男子バスケットボール部の認知度向上に取り組んだ。（令和 7 年 4 月時点 約 1500 人）その結果、令和 7 年度入学者 21 名が入部し、注目度の高まりを感じた。また、三遠ネオフェニックス U18 との合同練習を継続的に実施し、地域の若い世代にとって目標となる存在としての役割を果たした。また新規部活動として、硬式テニス部、硬式野球部を設立し、令和 7 年度からの始動に向けて指導者を決定、部室や備品を整備し体制を整えた。硬式野球部には令和 7 年度入学者 3 名が入部予定。

7 内部質保証の向上

令和 6 年 10 月 21 日～23 日日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、同機構が定める大学評価基準を満たしていると認定された。優れた点としては、「長期企業内留学」及び「学校インターンシップ」をキャリア関連科目として教育課程に整備していることや、社会人として求められる力を身につける「DiCoRes プログラム」、地域課題に真摯に取り組む機会を提供する「長期学外学修プログラム」の取組が高く評価された。

8 大学短大業務統合ソリューションパッケージの導入

事業計画の段階では、令和 6 年 6 月より移行作業を開始し、令和 7 年 4 月の本格稼働を目指していたが、卒業生データの取り込みが完了していない。また入試関連の運用テストも終了していないため、令和 7 年 4 月以降も引き続き、システムの整備を進めていく。

【浜松学院大学短期大学部】

1 スマート保育士（スマート教育スペシャリスト）の養成

授業科目「スマート保育入門（2 単位）」を 1 年次科目として開設し 14 名が履修した。

学修ボランティアサークルを発足し、2 年生の 4 名と 1 年生 14 名が学生による模擬授業・実践授業に参加し、「スマート教育スペシャリスト認定資格」の取得を目指した。

浜松私立幼稚園協会主催の「親子ふれあいフェスティバル」及び民間企

業主催のプログラミング教室、さらには市内幼稚園での親子プログラミング教室への参加により実践を重ねた。

結果として、検定試験（学科試験）は全員が合格、実践キャリア 24h を達成した 11 名が「スマート教育スペシャリストシングルスター仮認定証」を 2024 年度内に取得し、1 名が「スマート教育スペシャリストシングルスター認定証」を取得した。引き続き「スマート教育スペシャリストダブルスター」の取得を目指している。

なお、認定資格名については、「スマート保育士」から「スマート教育スペシャリスト」に変更し、それに伴い当該科目名も令和 7 年度より「スマート教育入門」に変更する。

また、「プラットフォームふじのくに リカレント教育リレー講座」において「スマート保育士養成をめざす」の講座を開設し広く社会に普及活動を実施し、23 名の申込みがあり、17 名が受講した。引き続き令和 7 年度も実施していく。

2 高大連携プロジェクトの実施

浜松学院高校との高大連携科目等履修生制度について、積極的に広報を実施し、受講者増、学園内部進学者増を図る。令和 6 年度は日程調整の不調から実施できなかったが、入学者選抜制度に関する意見交換、教育情報の交換のためにも継続実施していく。

3 広報活動の積極的な展開

長期履修生制度について、令和 7 年度から長期履修生コース（3 年制）を開設し、2 年間の履修モデルに加え、3 年間の履修モデルを設計した。今年度は 1 名が長期履修生コースを選択した。

子どもフェスティバルとハマタンびじっとの同時開催を実施。子どもフェスティバルについては 773 名の参加者。ハマタンびじっとについては 19 名の参加者であった。

4 奨学金給付事業の充実

入学者選抜に伴うスカラシップ（奨学金）給付制度の検討を行った。総合型選抜と推薦選抜の給費生選抜について、総合型選抜強化のため、追加で給付を行う必要性について、検討した。

5 学納金収入増加策の検討

140 名の入学定員設定であるが、近年定員未充足であったことから、令和 8 年度から入学定員 100 名（収容定員 200 名）へと変更する。定員減を行い、入学定員の適正化を行うことで補助金収入が増加する。同時に入学者を定員以上確保し入学者増を図っていきたい。

6 内部質保証の向上

自己点検評価を実施し、9月に認証評価を受審した。認証評価では、課題や指摘はなく、「子どもフェスティバル」、「子どもの未来創造センター」、「スマート保育士」の育成計画や就職先の園長との懇談会を開催するとともに卒業生の評価に関するアンケート調査を実施し、教育内容・方法等を改善している点について優れた取り組みとの評価をいただいた。

7 ラーニングラウンジ(図書室)の整備

図書検索システム等図書館機能の提供開始。ラーニングコモンズ等明るいイメージの環境整備を実施した。

ラーニングコモンズの整備として、Wi-Fi スポットとしての環境整備を行い、また、授業・グループ学習での利用促進を実施した。

【浜松学院興誠高等学校】

1 教育課程（カリキュラム）の整備と再編

現行の教育課程の一部を変更し、普通科高校としてのトータルバランスを保ちながら指導要領の趣旨を生かした授業展開を行えるようにした。土曜日授業の取り扱いについて検討を重ね、月～金曜日の平日で授業を展開し、土曜日は登校すべき日から減ずることとし、補習講義や部活動への自主的、積極的な参加を促すように日課を整えた。

2 部活動の活性化

本校では、令和3年度から生徒の部活動加入を任意とした。結果、加入率及び対外実績が伸び悩みの傾向にあるが主体的な活動を導き出すこともできている。今年度は全国大会へ1部活、東海大会へ2部活が出場することが出来た。今後は部活動の教育的意義を踏まえつつ、生徒の主体的・積極的活動参加を促しながら他者との交流や切磋琢磨のための場として部活動の一層の魅力化を図る。

3 進路指導の充実

ベネッセコーポレーションが実施するスタディーサポートθ、実力診断テスト、進研模試などに計画的に取り組み、学習到達ゾーン（GTZ）を共通の学力を測る尺度として利用した。また、それらのテストに向けた課題（ワークブック、学習動画配信、補充プリントの配布など）へ積極的に取り組むよう指導を行った。外部講師の協力を仰いだ講演を配置するなど適切な進路選択の実現に向けて指導を行った。

4 募集広報活動の強化

募集イベントを増やし、個別の相談に柔軟に対応できるよう機会を整えた。さらに中学校における出前講座や高校説明会への派遣、職員の中学校・私塾訪問での情報交換など、広報活動が中学生やその保護者に行きわ

たるよう注力した。接点を増やすだけでなく、新体育館増設、校名変更、制服改定といったアピールポイントを効果的に伝えることができた。

5 地域連携の推進

吹奏楽部、津軽三味線部、ダンス部、鉄道研究部など部活動の出展・公演等により、地域との交流を図った。また高台地区防災協議会に参加し地域との連携を図った。

6 設備整備の推進

新体育館共用に向けた諸準備や校名変更に向けた改修を中心に、施設の改修更新等の教育効果を上げられるような工事を、教育活動への支障を最低限の抑えるような計画で実施した。

7 学園内連携の継続と推進

中・高、短大、大学の連携を図るために学園内の分掌体制を整えた。

8 教職員研修の充実

コロナ禍で滞りがちだった研修交流や情報交換の場への積極的参加を促す計画であったが、研修機会の充実させるほどの「余裕」が生み出せなかった。

9 教職員の採用

年度末退職者の補充及び研修休職者の補充のみならず、学級増にかかる人的補充に対応することができた。

【浜松学院興誠中学校】

1 英語教育の充実

本校ならではの特色ある英語学習を通して、基礎的英語力の習得につなげることができた。日本の文化について調べることから始め、学年を追って国際理解教育を進め、3年次にはオーストラリア海外研修の成功につながった。

また、担任複数制や特定教科の複数教科担任による習熟度別・能力別授業を取り入れた結果、生徒個々のニーズに応えながら、きめ細やかな個別学習を保障することができた。学校評価生徒アンケート「わかりやすく充実した授業」（4段階 A, B 評価）82.7%

2 部活動の活性化

強化部活動である男女バスケットボール部は、県大会以上の上位大会に出場し、活躍した。男女バスケットボール部以外の生徒の部活動加入について、中学校高等学校の生徒と教員の交流の視点に立って勧誘に努めた。 (R6 加入率 33.3%) また、強化部活動や本校及び高校の財産である独自の部活動の活動を積極的に発信し、部活動加入率の向上につなげたい。

令和 8 年度までに段階的に移行する地域部活動の方向性や部活動の指導の在り方など、全国的な流れに関する情報を収集している。

3 積極的な生徒募集・広報活動の展開

本校の特色ある教育活動や学校行事・生徒諸活動等・特待生制度の変更点等を広く理解してもらうために、小学校訪問や私塾訪問の件数を多くすることに努めた。特に、令和 6 年度は、校名・制服変更、新体育館建設という「RENEWAL ポイント」の発信により注目を集める結果につながった。小学校訪問は、20 校から 62 校に増やした。

今後も、高等学校映像部の活動と連携しながら SNS への積極的な情報発信を進める。

4 イベント実施による地域貢献活動の推進

地域清掃活動、職場体験、サツマイモの栽培・収穫と地元店舗での販売体験を通して、地域社会で暮らす人々から学ぶ機会を得た。また、例年通りハロウィンイベントを開催できた。

5 興誠学園内連携教育の推進

総合学園としての強みを本校の教育課程に反映させた。大学関係職員や高校教員との交流、浜松学院大学付属幼稚園と連携した体験活動を進めた。

大学生による授業、高校子ども教育コース生徒の協力によるハロウィンイベント、幼稚園児参加によるサツマイモ収穫体験、幼稚園保育実習を行った。

6 豊かな心をはぐくむ教育の充実

生徒理解を根底においた生徒指導を展開した。豊かな心を育む各種講座の実施、生徒や保護者との面談を実施し、生徒に寄り添った教育活動を展開できた。

7 教員の資質向上

浜松市教育センター開催の研修のほか、私学協会主催の研修に積極的に参加した。研修内容を中学校会議の中で報告し、共有した。

【浜松学院大学付属幼稚園】

1 スマート保育の推進

STEAM 教育研究所主催の公開講座等に園長等管理職が参加し、付属幼稚園の教育理念に沿ったスマート保育の導入について検討している。

2 保護者支援の充実

未就園児子育て支援広場では、担当教員が参加者に等しく声をかけてそれぞれの子育てに共感し、自ら発信できない保護者にも程よい距離感を持

ちかかわるようにした。カウンセリング事業では保護者の精神的負担に寄り添うよう努めたが、子育てを取り巻く家庭環境についての相談も多く、長期的な支援が必要な家庭もある。

また、父母の会主催の保護者向け講座を開催し、保護者への子育てに関する情報発信を行った。父母の会クラブ活動の内容を情報発信して参加者を募っているが、保護者の働き方により、参加できる保護者も減少しているようである。横のつながりを作るための活動であるため、無理のない範囲での参加募集をした。

3 園児確保体制の充実及び定員の適正化

HPに加え、インスタグラムを新規開設し、付属幼稚園の教育内容を幅広く周知できるようにした。また、未就園児活動についても内容を事前に周知して、園児確保につながるように心掛けたが、在籍数は減少となった。2歳6ヶ月入園の受入れをすることで、早期の園児獲得につながった。

利用定員変更について試算及び検討を行い、令和8年度の利用定員を変更することを決定した。

4 教職員が働きやすい職場環境づくり

園支援システムの活用により、保護者への連絡手段のペーパーレス化を図った。保護者によって賛否両論はあるが、どの保護者にもわかりやすい方法を今後も検討していく。

5 施設・整備の安全管理と更新

東棟2階保育室エアコンの故障による更新、遊具点検結果による危険遊具の撤去及び修繕、老朽化したフェンスの更新、プレイルーム床材老朽化による張替え等、緊急を要するものを優先して行った。

6 園児確保対策の充実（2歳児保育の周知及びニーズに応じた弾力的な受け入れ）

2歳児受け入れ開始を幅広く周知し、2歳6か月からの受入れが21名となった。ニーズがあることが確認できたため、令和7年度10月からの2歳児受入れ（5年保育）も決定し、周知をした。2歳6ヶ月以前の受入れについては、個々の保護者の育休復帰時期に合わせて検討することも視野に入れている。

7 豊かな心・健やかな体の育成

付属幼稚園の教育方針である「からだづくり」「こころづくり」「なかまづくり」の教育目標を念頭に、幼児期に必要な経験を積み重ね、その中で育つ心と体を大切にしたい。このため、幼児期の実体験の重要性を再確認し、たけのこ掘り、田植え等家庭ではできない、幼稚園だからこそ体験できる園外活動を行った。

【浜松学院大学付属愛野こども園】

1 スマート教育の推進

保護者や職員にスマート教育について話をし、理解をしてもらうことで関心が高まり、「親子プログラミング教室」を開催したり、職員がスマート教育スペシャリストの試験を受験することにつながった。

2 定員の適正化（1号認定児の定員数減及び2・3号認定児の定員数増）

園児定員数について、1号認定児の減員及び2・3号認定児が増員するよう袋井市と協議した結果、現行の1号認定児（幼稚園児）定員数90人及び2・3号認定児（保育園児）定員数90人をそれぞれ72人及び108人に変更するよう進めていくことを確認した。

今後、平成8年度から定員変更するため、県へ届出をする。

3 地元企業との交流の推進

令和6年度はNSKワナーに出向き「子育て講話」を実施することで交流することができた。今後も、子育てについて地域に情報発信をしていく。

4 教職員が働きやすい職場環境づくり

タブレットを活用し登降園管理（ダブルチェック）ができ園児の安全確保につながった。園支援システムの活用によりペーパーレス化の検討をし、令和7年度から実施予定である。

5 施設の安全管理と長寿命化の推進

専門業者による定期点検（園舎、遊具）と職員による日常点検を実施した。とりわけ、日常業務の中で行う日々の点検の実施と施設を大切に使うことで保全の意識を醸成し、不具合箇所の早期発見に努め適切に修繕した。また、職員の工夫とアイディアで予算を使わず良い環境にする方法を考え実践するなど、ハード・ソフト両面から施設の長寿命化を図った。

6 豊かな心・健やかな体の育成

袋井市サッカー協会、浜松学院大学及び近隣の住民の協力を得て、今年度もサッカー、リトミック及び坐禅体験を保育に取り入れてきた。また、新たに南の丘学園の構成園であるこども園、幼稚園や附属幼稚園の子どもたちとの触れ合いをした。様々な体験をする中で、豊かな心・たくましい体づくりを進めることができた。

7 園児確保対策の充実（2歳児を対象とした子育て支援事業「2歳っこひろばパンダ」の実施）

親子で園生活の体験ができる機会として実施してきた。パンダ利用者から17人の入園者があり、入園児が減少している中、園児確保のための重要

な事業であった。今後は、2歳児だけでなく0歳児・1歳児の参加できる機会も考えていきたい。